

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会
2006 年秋の大会 総会議事
(2006 年 9 月 28 日 12 時～13 時 F 会場)

議 事 次 第

進行：山澤委員

- | | |
|----------------------------------|--------------|
| 1. 部会長挨拶 | 飯田部会長 |
| 2. 部会の体制について (資料1) | 高橋委員 |
| 3. 2006 年部会企画について (資料2) | 山西委員 |
| 4. ICRP 調査研究連絡報告会について | 飯本委員 |
| 5. 部会主催・共催シンポジウム等について (資料3) | 飯本委員 |
| 6. 原子力学会誌特集記事及び連載講座の提案について (資料4) | 服部委員
米原委員 |
| 7. 2007 年春の年会以降の部会企画について (資料5) | 山西委員 + 担当者 |
| 8. 日韓サマースクールについて | 飯本委員 |
| 9. 委員会報告 | 各学会委員 |
| 10. その他 | |
| 11. 副部会長挨拶 | 本間副部会長 |

以上

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会
第4期(2006～2007年度)委員名簿

【役員】

部会長 : 飯田孝夫(名大)
副部会長: 占部逸正(福山大)
副部会長: 本間俊充(原子力機構)
会計監査: 宮崎振一郎(関電)

【運営委員】23名

飯田孝夫(名大) 飯本武志(東大) 植頭康裕(原子力機構) 内田滋夫(放医研) 占部逸正(福山大) 木名瀬栄(原子力機構) 栗原治(原子力機構) 小嵐淳(原子力機構) 小佐古敏荘(東大) 下道国(藤田保健衛生大) 杉浦紳之(近大) 高橋知之(京大) 塚田祥文(環境科研) 外川織彦(原子力機構) 服部隆利(電中研) 二ツ川章二(RI協会) 本間俊充(原子力機構) 三浦太一(高工研) 宮崎振一郎(関電) 百瀬琢磨(原子力機構) 山澤弘実(名大) 山西弘城(核融合研) 米原英典(放医研)
()は常任委員会を構成する部会長、副部会長及び幹事)

【学会委員】

部会等運営委員	杉浦紳之(近大)	2004～2006年度
学会誌編集委員	服部隆利(電中研)	2004～2006年度
	米原英典(放医研)	2004～2006年度
	外川織彦(原子力機構)	2006～2008年度
学会プログラム委員	植頭康裕(原子力機構)	2005～2007年度
	木名瀬栄(原子力機構)	2005～2007年度
日韓サマースクール運営連絡会担当	飯本武志(東大)	2005～未定

【担当委員】

総務担当: 高橋知之、山澤弘実(運営委員会及び総会運営、その他雑務)
会計担当: 塚田祥文(会計)
渉外担当: 飯本武志(学会事務局、他学協会、他部会等との連絡調整等)
企画担当: 山西弘城、栗原治(部会企画の立案、運営、プログラム作成等)
広報担当: 小嵐淳(ホームページ管理、メーリングリスト管理、部会ニュース作成等)
組織担当: 木名瀬栄(投稿論文、学会発表の勧誘、部会員の増強)

2006 年部会企画について

2006 春の年会 3月25日(土) 10:00~12:00

企画セッション(保健物理・環境科学部会)

「東アジア地域の総合的な放射線・放射能監視システムの構築」

講演 : 座長:名古屋大学 飯田孝夫

1. 日本海におけるロシアの廃棄物投棄及び原子力潜水艦の臨界事故
日本原子力研究開発機構 外川織彦
2. 小型核兵器・放射性物質によるテロ
札幌医科大学 高田 純
3. 東アジアの原子力開発の現状と日本の広域モニタリングの必要性
名古屋大学 飯田孝夫

総合討論: パネリスト:上記講演者3名

2006 秋の大会 9月28日(木) 9:30~12:00

企画セッション(保健物理・環境科学部会)

「炭素 14 の環境中移行研究の現状と今後の展開」

講演 : 座長:名古屋大学 山澤弘実

1. 樹木年輪を用いたセラフィールド再処理施設からの炭素 14 大気放出量の再評価
日本分析センター 磯貝啓介
2. 閉鎖型生態系実験施設での C-13 を用いた大気・食物を介するヒトへの炭素移行実験計画
環境科学技術研究所 多胡靖宏
3. 河川環境における粒子及び溶存態 C-14 の環境挙動
北海道大学 長尾誠也
4. 森林炭素 14 循環と環境問題への展開
日本原子力研究開発機構 小嵐 淳
名古屋大学 山澤弘実
5. 炭素 14 環境中移行モデル化の現状と EMRAS での展開
京都大学 高橋知之
日本原子力研究開発機構 小嵐 淳

部会主催・共催シンポジウム等について

第 8 回環境放射能・放射線夏の学校

日 時：2006 年 8 月 7 日(月)～ 8 月 9 日(水)

会 場：ウィングス京都

主 催：第 8 回環境放射能・放射線夏の学校運営委員会

共 催：日本原子力学会保健物理・環境科学部会、日本放射化学会、日本放射線影響学会、
日本保健物理学会、

第 8 回「環境放射能」研究会

2007 年 3 月開催予定

原子力学会誌特集記事の提案

平成 18 年 8 月 28 日
保健物理・環境科学部会
担当編集委員

1. タイトル 「最近の重要な放射線安全基準の考え方と関連する国際動向（仮題）」

2. 内容

- ・ BSS 関連 1 名（JAEA 山本）
- ・ クリアランス関連 1 名（JAEA 大越）
- ・ NORM の規制免除 1 名（NIRS 米原）
- ・ はじめに、おわりに 担当 1 名（東大小佐古）

3. 背景

7/7AM、第 1 回編集幹事会、PM 第 1 回編集本委員会に、電中研の服部編集委員が、NIRS 米原編集員の代理で出席し、下記の内容が明らかとなった。

- ・ NIRS 米原編集委員は、
学会誌連載講座を担当する E グループメンバー。
- ・ JAEA 外川編集委員は、
学会誌記事企画のうち、特集を企画担当する B グループメンバー。
- ・ 現在、両方のグループで、
放射線防護に関連する、特集と連載講座の企画が、当部会に求められている。
- ・ 重複をさけるためにも、どちらかにしたい....と、電中研の服部編集委員から提案。
- ・ 次回、北海道大学の部会会合で、
どちらにすべきかを議論し、詳細を執筆者とも相談して決め、
その結果を、B グループ長の稲田委員、E グループ長の白川委員、
C.C.で、近藤編集委員長にメールで報告することとなった。

以上

2007 年春の年会 部会企画（案）

「自然放射線に関する放射線防護の動向（仮）」（敬称略）

司会：占部または本間 2 時間

- 1．自然放射線の防護に関する国際及び国内動向（飯田） 10 分
- 2．自然起源の放射性物質の管理（米原または推薦若手） 20 分
- 3．航空機被ばくの管理（保田） 20 分
- 4．宇宙飛行士の被ばくの方（岩井または推薦若手） 20 分
- 5．職場と一般環境のラドンの対策（飯本） 20 分
- 6．パネル討論（シニア 2 名よりコメント含む） 30 分

以上